

楽譜作成ソフトで音楽科・創作の課題を解決、新指導要領も先取り

学校生活の中で鳴ってほしいオリジナルチャイムを作曲しよう

獨協埼玉中学高等学校 講師 相原 結

キーワード：作曲，中学生

実践の概要

中学1年生の授業でパソコンと無料の楽譜作成ソフトを用い、「学校生活の中で鳴って欲しいチャイム」を協働して創作する授業を構想し実践した。ほとんどの生徒が1時間で作曲できた。新学習指導要領が示す「思いや意図に基づく、生活と関連した創作活動」も実践できた。

1. 目的・目標

(1) 1時間の授業でテーマを決めて作曲

中学校学習指導要領音楽科では「創作」を実施することになっている。しかし、「平成27年度 全日本音楽教育研究会中学校部会 調査研究報告書」によると、学習指導要領が示す「言葉や音階などの特徴を活かし、表現を工夫して旋律をつくる」の実施率は43%、「表現したいイメージをもち、音素材の特徴を活かし、反復、変化、対照などの構成や全体のまとまりを工夫しながら音楽をつくる」の実施率は36%に留まっている。これは、限られた授業時間の中で創作を実施することが困難なためだ。

実践事例では、パソコンと無料の楽譜作成ソフトを用いて、知識・技能が不十分な生徒でも限られた授業時間の中で創作を体験することを目的とした。

(2) 新学習指導要領が示す「思いや意図に基づく、生活と関連した創作活動」を協働で実践

新学習指導要領では、「主体的・協働的な学び」「思いや意図に基づく、生活と関連した創作活動」を示している。「2人1組での創作」「作曲した曲をクラス全員に紹介」「4人1組で曲の意図を探る」といった取り組みをICT活用で実践することで、新学習指導要領を先取りした授業を実現することを目指した。

2. 実践内容

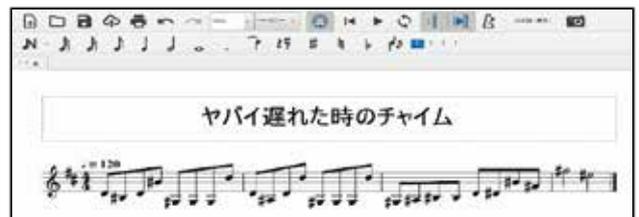
2.1 【テーマを決めて作曲（約60分）】

授業では、無料でダウンロードできる楽譜作成ソフト「Muse Score」を利用した（図1）。

題材は、生徒の生活と関連した身近な音楽である「チャイム」を選定。2人1組で「チャイム」を作曲した。「曲名」「どんな雰囲気にするか」を決め、話し合いながらソフト上で音やリズムを変えてイメージに合うように創作した。ソフトの機能で、音を再生する楽器を「トランペット」や「声」に変更することで、楽器（音色）が変われば曲の雰囲気が変わることも学んだ。

約60分間の授業時間の中で、ほとんどの生徒が作品を完成できた。作品はクラス全員に披露し、生徒はすべ

無料の楽譜作成ソフト「Muse Score」



「Muse Score」は無料でダウンロードできる楽譜作成ソフト。ドラッグ操作で楽譜を配置したり、再生ボタンで楽譜を演奏したりできる。パソコンとこのソフトを使うことで、限られた授業時間で多くの生徒が創作活動を体験できるようになる。曲を繰り返し聞きながら、グループで討議することもできる。

上図は生徒の作品例。「次の授業に遅れそうで焦っている雰囲気から始まり、最後の二分音符で、『間に合わず途方に暮れる心情』を表現した」（生徒の発表から）。

図1 Muse Score

【本時の学習内容】

- 指導目標／
 - ア. 創作表現に関わる知識や技能を得たり活かしたりしながら、創作表現を創意工夫すること。
 - イ. 音のつながり方の特徴を理解すること。
 - ウ. 創意工夫を活かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組み合わせなどの技能を身に付けること。
- 評価／
 - ・知覚、感受を通して気付いた、旋律の動きと曲想との関係、旋律と他の要素との関わり方に基づいて、意欲的に作曲しているか。
 - ・チャイムで表現したいイメージ（雰囲気）を明確に持ち、旋律の動きと曲想との関係、旋律と他の要素との関わり方に基づいて創意工夫をしているか。
 - ・表現意図に沿った旋律の音の選択や他の要素との組み合わせなどの技能を身に付けているか。

【指導略案】

- 単元指導計画（全体時間2時間）
 - (1) テーマを決めて作曲（1時間）
 - (2) チャイムを聴き比べ、意図を探る（1時間）

学習活動	生徒の活動	指導者の活動
日常の中の音楽について考える	音域、音色、リズムはどうなっているか、それはなぜかを考える。	生徒になじみ深い生活の中にあるチャイムを聴かせる。
自分の曲によって人をどのような感情にさせたいのかを考える。	チャイムの役割と音の持つ雰囲気の関係性を考慮し、作曲する。	音の並べ方で雰囲気が大きく変わること気付かせる。
イメージ通りの曲が出来たか、より良くする為にどうするかを考える。	作品を互いに発表し合い、意見を交換する。	曲の盛り上がりや終止の雰囲気などを、PC上で実際に音を変えて生徒に提案する。
普段聴いている音楽にも作曲者の意図や工夫があることを知ったうえで、それはどのような部分なのか4人1組で考える。	原曲と編曲されたものを繰り返し聴き比べて、作曲者がなぜ原曲のように音を並べたのか考え、ワークシートにまとめる。	原曲の和声を維持しつつ、曲の雰囲気を変えたものを、2パターンずつ「Muse Score」で作成しておく。

ての作品の中から「ベストチャイム3作品」を、理由を書いて選出した（写真1）。



写真1 作曲の様子

2.2 【チャイムを聴き比べ「意図」を探る（約60分）】

「学校のチャイム」「最寄り駅の電車の発車音」など日常にあるチャイムを題材にして、曲に込められた「意図」などを4人一組で探った。

リズムや音程を変えた3種類の「チャイム」と「発車音」を用意。生徒はソフトを利用し、楽譜上の音の再生場所を視覚的に確認しながら、曲を繰り返し聞いて議論し、最後に考察の結果をクラス全員に発表した。授業を通じて、生徒はチャイムに込められた意図、アレンジによって曲の印象がどのように変わるのかなどを学んだ（写真2）。



写真2 チャイムの「意図」の考察

3. 成果

生徒は自ら作曲することで、「音の高低やリズムの違いで曲の雰囲気が変わること」「自分のイメージ通りの曲にするには多くの工夫が必要なこと」を体感。音楽作品は作曲者の意図やイメージを基に作られていることを学んだ。ICT活用で協働的な学びも実現した。ほかの生徒の作品を全員で聞くことで、「創作」と「鑑賞」の2つ側面で、作曲者の意図や音楽の構成を考えることができた。

無料の楽譜作成ソフトを使っているため、この授業はパソコンさえあれば容易に実施できる「普及性」が特徴

である。また、身近な音楽であるチャイムを題材にしているため、どの学校でも取り組みやすい。短い曲であるチャイムを用いるので、授業準備が簡単で教員に特別なスキルも必要ない。

ほぼ全ての生徒にとって初の「創作」だったが、約60分間で自ら決めたテーマのチャイムを作曲できた。パソコンと無料の楽譜作成ソフトの組み合わせで、限られた授業時間の中で「創作」ができることを実証できた。

授業後のアンケートでは、97%の生徒が「創作の授業が楽しかった」と回答。「また作曲してみたい」と答えた生徒も83%に達した。この授業を通じて生徒たちは、「音とイメージとの関係」「協力して作品を作る楽しさや難しさ」などを学んだ。日常に存在する音楽を題材にしたことで、新学習指導要領が示す「思いや意図に基づく、生活と関連した創作活動」も実践できた。この授業の終業チャイムにクラス全員が耳を傾け、集中して聴いている姿が印象的だった（図2）。

生徒へのアンケートの結果（有効回答76人）

- 「創作の授業が楽しかった」【97%】
- 「生活の中の音楽に意図があることを学んだ」【54%】
- 「旋律は、音の向きや隣の音との関係などで、雰囲気が変わることを学んだ」【63%】
- 「同じ旋律でも、音色（楽器など）が変わると雰囲気が変わると学んだ」【70%】
- 「また作曲をしてみたいと思う」【83%】

- 【自由記述】（カッコ内は生徒が考えたテーマ）
- ・朝のさわやかな感じをメロディで表し、先生が来て着席するはやる気持ちをパイプオルガンで表現した（「先生来たぞチャイム」）
 - ・帰る時は楽しい気持ちなので、すごく楽しい感じにするために音を高くしてみた（「帰る時のチャイム」）
 - ・絶望した感じを出すために『男性の声』を使った（「大量に宿題が出された時のチャイム」）

⇒ ほとんどの生徒が「創作」を楽しいと感じて、また作曲してみたいと回答した。

図2 生徒へのアンケート結果

4. 今後に向けて

本来作曲は、和声や理論、記譜の仕方などを学んでから取り組まなければならない。その時間や難しさの壁をICTを活用することで越えることが出来た。今後は自分が作曲した曲がなぜ素敵に聴こえるのかという観点から、和声や理論を学ぶことも面白いのではないだろうか。また音楽は、ほかの芸術科目と違って、他のクラスの生徒や担任教諭などに生徒の成果を知ってもらう機会が少ない。生徒がパソコンで作った曲をCDなどに記録し、廊下や職員室前に視聴コーナーを設ければ、他クラスの作品を互いに聴き合えるのもこの実践の魅力だ。